

私の 考 教 学

二年半前まで、小学校の教師だった。教師時代、地元の高校に聴講生として通っていた自閉症の下原猛さん(35)と知り合ったことで、学校教育に限界を感じるようになったという。

障害者小規模作業所 「夢屋」代表

宮本 誠一 さん(35)



教育

コーヒーも飲める喫茶店でもある。

五年間続けた教師を辞める最大のきっかけは、個人学習診断テストだった。

「子どもたちに受けさせるのが苦痛だったし、反対も思っていて、はっきりと意思表示しない教師が多いことにも不信感を持ちました。職員室では異論

教師生活を振り返ると「必要なストレスがたまることが多かった」と言う。

よる中絶容認の動きには、いち早く具に反対の意見書を出した。

「子どもの声を取り入れた取り組みにしても、『一クラスだけはおかしい』などと言われ、元に戻されてしまっ

教育現場の改革案は、「もっと義務教育にも選択肢を増やすことが必要なのではないでしょうか」と言う。

「子どもたちに受けさせると意思表示しない教師が多いことにも不信感を持ちました。職員室では異論

例えば教科教育を中心にするクラス、人権教育を中心にするクラスなど、教師心に

れていて、なかなかできませんから」

点数が上がるクラスが人気を集め、逆に競争をおおっ

「オウム真理教や教育をめぐるさまざまな事件があり、高学歴指向や偏差値教育に『ちょっとおかしいぞ』

自由に論議がでる場を

たんです」

障害者が地域で生活する道を開こうと、退職後、阿蘇郡一の宮町に障害者のための作業所「夢屋」をつ

を言うとそれだけで反感を持たれ、話し合おうという道を開こうと、退職後、阿蘇郡一の宮町に障害者のための作業所「夢屋」をつ

辞めてから、問題提起をしようとする積極的な行動を

が学級経営の方針を積極的にアピールし、子どもや保護者がクラスや担任を選

下原さんの自宅の一階部分約百平方メートルを改装。一年がかりで壁を塗り、板を敷

「教師自身もシステムの中に組み込まれてしまっ

「子どもや保護者も多様化し、要望もバラバラです。教師も何を教えるか、が自

「子どもや保護者も多様化し、要望もバラバラです。教師も何を教えるか、が自

師も、自由に論議できる場が必要。いろいろな人が立ち寄って、自由に何でも話せる場。『夢屋』をそんな所にできたら、と思っ

がかりで壁を塗り、板を敷いた。手作りパンを販売し、

「教師自身もシステムの中に組み込まれてしまっ

「子どもや保護者も多様化し、要望もバラバラです。教師も何を教えるか、が自

「子どもや保護者も多様化し、要望もバラバラです。教師も何を教えるか、が自

師も、自由に論議できる場が必要。いろいろな人が立ち寄って、自由に何でも話せる場。『夢屋』をそんな所にできたら、と思っ